

奥利根：雨ヶ立山・布引山

◆日程 2020年1月25日(土)～26日(日)

◆メンバー L：林、須田、伊藤(元)、小山田

林さんの企画をいつも横目で見ながら、参加したくてもハードルが高すぎると、二の足を踏んでいた。今回は癒し系の山行だという。調べてみると、山スキーで登っている記録はたくさんある。(ただし、3月4月ばかりで、1月はあまり見当たらなかったが) なんとかなりそうだ、と思いついて、手を挙げた。天気にも恵まれ、素晴らしい経験だった。

1月25日(土) 天候：晴れ

伊藤元さんの車で水上へ。途中事故渋滞で、いったん下道を使ったりと苦労の末、予定より2時間遅れでのスタート。晴れて気温も高い。宝川を脇に見ながら、林道を黙々と歩く。雪は少なく、土が出ていたり、融けた雪で水が流れていたり。途中でスノーシューを履く。予習してきたはずが、ベルトが短くてうまく履けず、手間取ってしまう。後々、このスノーシュー不具合で時間がかかり、迷惑をかけてしまうことになる。宝川は素敵なナメの多い、沢登りによさそうな川だ。夏にまた訪れたいなどと呑気なことを考えながら小一時間歩く。取り付きだと思っていた場所よりもかなり手前の尾根を林さんが示す。見上げるとだいぶ急登に見えるが、気のせいだろうか。

一本入れ、登り始めると、湿った雪と、ブッシュに悩まされ、なかなかうまく上がれない。ストックは一本にして、片手はなるべく枝をつかんで登ること、重心をかかると置くこと、などを須田さん伊藤さんが後ろからアドバイスしてくれて頑張るが、前を行く林さんの姿は全く見えない。ラッセルしてくれている踏み跡の上に足を置くが、どうしてもさらにもぐってしまい、踏みぬいた下がブッシュだったりする。難しい。おまけに、ここで枝に絡め取られて、おでこに上げていたサングラスを落としてしまう。ひもを付けておかなかったのが失敗だ。須田さんが予備を貸してくださる。

高度が1000を超えてくると、雪質も少し良くなり、稜線に出たところからはだいぶ楽に進めるようになる。アップダウンを繰り返して、急に視界が開けて、樹林に囲まれた平坦な幕営適地が現れる。眺めのすばらしさと、疲れから、ここでテントを張りたくなるが、1400くらいにいいところがあるはず、とのリーダーのお言葉で、もう少し上がる。30分するかしないかで、ここなら、という場所にザックを下ろす。暗くなる前にテントを張ることができた。昼間もほぼ無風だったが、夜も全く風はなく、寒くなく、快適に過ごせた。私は初めてフライを使わずにテントを使ったが、案外平気なのだ、と感心した。天気次第で、すごい軽量化になる。ただ、隅に寝た伊藤さんは、結露が落ちてくるのに悩まされたもよう。

(記：小山田)

CT：宝川温泉 10:20 - 理水試験観測所 11:45 - 1300 付近 16:15 - 16:50 幕営

1月26日(日) 天候：晴れ

夜もテント内が暖かったせいか、誰もトイレに起きることもなく、4時起床。癒し山行だけあって、ゆっくりめで、助かる。雨ヶ立山に向かうが、私のスノーシュー不具合で時間をとってしまい、申し訳ない。しかし雪軽く、広い尾根をゆくのは楽しい。しかもここでトップをやらせてもらう。ところどころ大きな樹が点在する広い尾根は素晴らしい場所で、ここを独り占めしている気分は、最高のご褒美だ。天気よく、樹氷が落ちたものがキラキラしている。よく見ると雪の表面もキラキラ光っている。この前机上講習で説明してもらった表面霜というものだろうか。ゆるくなだらかな登りをぐんぐん進む。右手に見えるのは尾瀬の至仏山と教えてもらう。今日もだいぶ遠くまで見渡せそうだ。途中で伊藤さんにトップ交代し、苦労もなく雨ヶ

立山へ。360度の絶景。上越の山々もよく見渡せ、これから行く布引山への稜線が白く美しく続いている。もちろん私たち以外誰もいない。雪稜をゆく快感というのは、こういうことなんだな、と思う。動物の足跡しかない白い峰々が広がるさまは本当に素晴らしい。



雨ヶ立山山頂

ここから先、雪のコンディションがくるくる変わる。風の通るところや北側(?)はガリガリで、スノーシューの前爪をしっかりきかせないと恐ろしい。少し雪が溜まっているようなところは足がもぐる。そのつぎの一步はもう、ガリガリだ。アイゼンであれば、なんてことない雪が、爪の少ないスノーシューでは、なんとも心もとない。目まぐるしく変わる足元に神経を使う。風がなくて助かった。布引山に着き、烏帽子、その先に大烏帽子を望む。林さんは朝日岳に狙っている尾根があるらしく、そちらを仔細に観察し、写真を撮

っている。こうやって自分で確認し、よく見て、次に登りたいところの資料としている。なんでもすぐにググって終わらせている自分を深く反省した。烏帽子までも緊張を強いられる足元だったが、危ない場面はなく着いた。

下山も標高が下がるまでは美しい尾根を行くお楽しみだったが、雪の湿度が増し、ブッシュが現れてくるにつれ、ずぶずぶの足元に悩まされて私だけペースがおちてきた。転んで雪にハマっては、なんとか抜け出す、を繰り返すうちに、林さんと伊藤さんの姿は見えなくなり、余裕を無くして地図も出せず、現在地もおぼつかない。情けないことに、ただひたすら踏み跡を追っていくしかできなかった。それでも狙っていた林道終点到二時前には出ることができ、一息入れる。あとはただひたすら、宝川温泉目指して歩くだけだ。駐車場に戻るまで、山スキー含め一切他のパーティーには会わなかった。行きにも思ったが、雪が少なくてよく沢の様子が見えるせいか、ここは魅力的な沢が多いように感じた。雪稜もすばらしかったが、沢登りでも、ぜひまた訪れようと心に誓った。

帰りは林さんが探しておいてくれた上牧風和の湯という、日本一小さい露天風呂をウリ(?)にしている温泉でさっぱりして、帰途についた。こんなところまで、おんぶにだっこで、本当に申し訳なかったです。今回自分の個人装備の不備がいくつかあり、メンバーに迷惑をかけてしまったこと、深く反省しています。人のいない雪稜は、心底すばらしく、得難い経験でした。本当にありがとうございました。



板幽沢左陵下り

(記：小山田)

CT：幕営地 6:30 - 雨ヶ立山 7:35 - 布引山 8:40 - 烏帽子 9:40 - 林道終点
13:50/14:15 - 宝川温泉 16:10